



いざなぎ学園だより

No.8 2022.7/8

◆令和4年度 淡路文化会館「いざなぎ学園」第8回講座

7月6日(水)、県立人と自然の博物館 加藤茂弘先生による専門講座4「淡路島を造り上げた活断層と大地震」のご講義がありました。午後からは、エアコンが故障した部屋もありましたが、暑さにもめげず、サークル活動 風2(彫刻・カラオケ・手芸・パソコン初級)がありました。

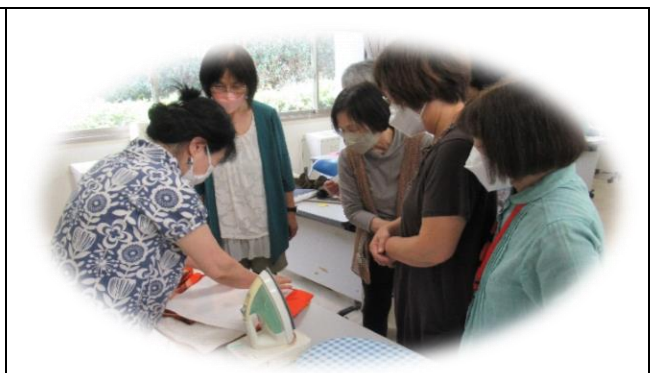


7/6 専門講座4「淡路島を造り上げた活断層と大地震」 兵庫県立人と自然の博物館 加藤茂弘先生

◎学園生のみなさんの感想 振り返りシートから (抜粋)

- 地震が起きるしくみや淡路瓦や淡路島玉ねぎなどが作れるのも地質とのかかわりだと納得できました。将来、南海トラフ地震が起きた時、生きていけるかどうかわかりませんが、次の世代の人たちが、来るべきその日に備え、大きな被害がないことを願うばかりです。
- 淡路島小豆島で地形や地質に違いがあり、もし淡路島がなかったら、気候、地形が大きく変わってしまう。(水産物や農産物にも)。活断層の調査は大変なこともよくわかりました。
- 専門講座として素晴らしい内容の講座でした。地層や地質の考察から将来の地震発生の可能性が推測されるとのこと。淡路島の南部に暮らしておりますので、身の回りを再確認し、いざというときに備えたいと思います。
- 地質学の講義は難しく理解ができない部分もあったが、忘れていた地震のことを思い出させてくれた。阪神淡路大震災直後は、備えの意識は強かったが、自分の中ではすっかり風化している。改めて地震への備えの重要性を再認識した。
- 嫁いで何気なく暮らしていた淡路島の地質、地形、地層の成り立ちを学びました。難しかったです。活断層が起こす地震の危険性の講義はとても興味がありました。

- なかなか興味深いお話でした。高校時代、「大陸移動説」の本を読んだ。大学では、六甲山の断層などを学んだ。高校の夏季合宿では福良の地層についてクリノメーターを使って測定したことを思い出した。音波探査やボーリング調査の結果を聞いてよかった。
- 地層のボーリングによって過去の断層を見つけ、将来の地震を予測する流れはなんとなく理解できたかな？地道な調査の積み上げの結果、南海トラフ地震が 2050 年までに発生すること。日頃から心の準備をしておきたいです。ありがとうございました。
- ブラタモリの裏話を織りまぜながら楽しく受講できました。特に淡路に粘土が多いメカニズムがよくわかりました。自宅周辺の地質や断層についてさらに勉強したいと思いました。
- 淡路島は近畿三角帯の西の先で活断層が密集するところにある。また中央構造線の北側で堆積した地層であり、粘土層が形成された。そのおかげで淡路瓦の材料ができたことなど淡路島の成り立ちがよく分かった。
- とても難しい内容でしたが、地層とか日本の成り立ちとか、地質学が好きな人にとっては楽しい講義だったと思います。「淡路島がなかったら」という発想は非常に面白く思います。
- 淡路島は地震の繰り返しでできた島であるということ。2050 年までに 70%~80%の確率で東南海地震が起こることなどを学びました。それに備えいつでも避難できる暮らしをしたいと思います。ブラタモリに出演された素晴らしい先生の講演を拝聴でき感謝申し上げます。
- 淡路島の起源から、地層と断層の分布の解説、瀬戸内海の島々の違いなど大変興味深いものがありました。自然現象を調べ、解明する研究者の方々の学識の深さに感銘を受けました。



7/6 サークル風2 (彫刻・カラオケ・手芸・パソコン初級)



